

IV 關係資料

地域探究科 はじまる



北海道大樹高等学校
HOKKAIDO TAIKI HIGH SCHOOL

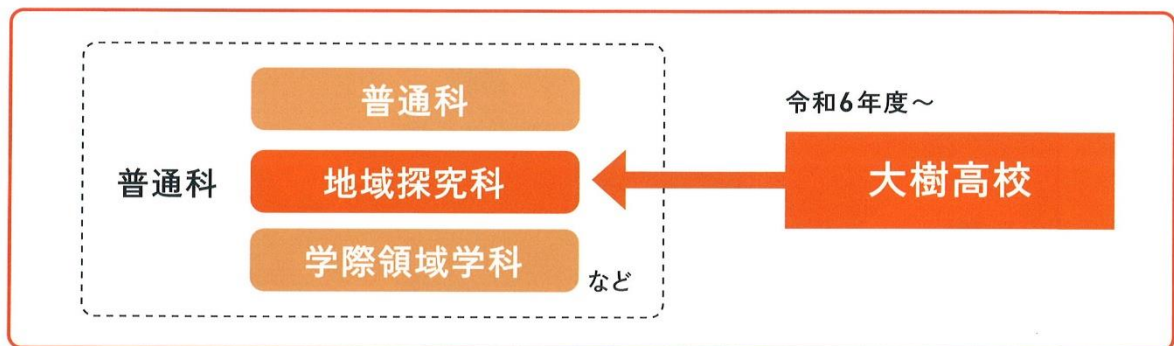
文部科学省 「新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)」指定校

大樹高等学校活性化推進協議会



大樹高校は文科省が推進する「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」に採択され学校の特色化・魅力化や、教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成に取り組んでいます。

大樹高校は令和6年度から「普通科 地域探究科」に学科名が変わります。

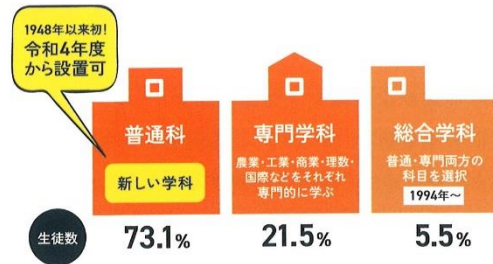


必修科目など、基本的なカリキュラムはこれまでの普通科と同じまま、総合的な探究の時間など、学校の裁量で使える時間を活用して、これまでも大樹高校が取り組んできた「一人ひとりの進路実現」と「地域と連携した探究活動」をより充実させていきます。



高校の普通科改革とは？

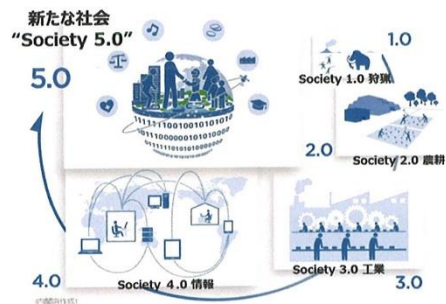
日本の高校は、普通科、専門学科、総合学科の3つに分かれています。多くの教科を幅広く学ぶ普通科のほか、農業や工業、商業、理数などの専門学科は、それぞれの専門科目を多く学びます。日本の高校生の7割が通う「普通科」について、高校の特色化・魅力化を推進するため、令和4年度から新しい学科を設置できるように制度が変わりました。



普通科改革のねらい

普通科改革の背景には、受験生の多くが学校の特色や教育内容ではなく、合格難易度や通いやすさをもとに選んでおり、高校入学後も大学受験や就職に関係ない教科は意欲が低下しがちという現状があります。普通科であっても、特色や魅力を打ち出した高校を増やすことによって、卒業後に大学や社会で学びを深めるための力や、課題発見・解決力など実社会でさまざまな課題に接する際に必要な力を身に付けることが普通科改革のねらいです。

現代の社会に目を向けると、産業構造や社会システムが急激に変化しており、実社会で求められる能力は変わり続けています。高校教育で従来を取組を続けているだけでは、新しい時代に対応できる人材の育成にはつながりません。地域社会と連携・協働して、多様な他者と協働して地域社会に新たな価値を生み出すことが求められています。



Q & A

Q 大樹高校は「普通科」ではなくなってしまうの？

A 大樹高校はこれからも「普通科」ですが、「地域探究科」という小学科名がつきます。基本的なカリキュラムは普通科のまま、学校独自で設定した3つの特色あるカリキュラムが充実します。

Q 大学や専門学校への進学には対応できるの？

A 理系・文系の大学進学はもちろん、各種専門学校への進学も可能です。これまでの普通科のカリキュラムに加えて、より一層、一人ひとりの進路に応じた選択科目も充実します。

Q 「地域探究科」と「普通科」は選べますか？

A 令和6年度以降に大樹高校に入学する生徒は全員「普通科 地域探究科」の生徒になります。



1 地域と繋がる、社会が身近になる 地域社会に関する学校設定科目 「地域デザイン」

大樹町の豊かな産業や人材資源をフィールドに、自身が関心をもつ地域課題についての探究活動に取り組みます。実際に現場を訪れ、地域の人と対話をする中で、地域や社会の課題は様々な事象が複雑に絡み合っていることを理解し、対話と共創によって課題を解決する力を身に付けます。

2年生

テーマ別の課題探究にチャレンジ!

STEP 01 フィールドワーク

- 教育・福祉
- 農林水産業
- 宇宙・科学技術
- 商業・観光



STEP 02 課題設定

- ・酪農の魅力をもっとPRするには?
- ・宇宙の魅力をもっと知ってもらいたい!
- ・高齢者と若者の交流の場をつくりたい!

STEP 03 検証

- ・酪農の魅力を伝えるレシピ考案
- ・キャラクターとロケットのコラボ提案
- ・高齢者とゲームで交流



STEP 04 発表!



3年生

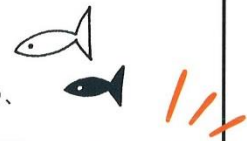
個人テーマで課題探究にチャレンジ!

大樹町の海の問題を知っていますか?



実際に漁港を訪れ、漁業協同組合の方にお話を聞きに

赤潮のニュースに関心をもったことをきっかけに、大樹町の漁業の問題をテーマに探究をスタート。赤潮は自然災害のため防ぐことはできないことを知り、いま自分達にできることを考えた結果、より多くの人に赤潮の被害を知ってもらうことをテーマに活動を開始しました。ポスターを制作し、高校の文化祭で展示。見た人にアンケートをとりその成果をまとめ報告しました。



赤潮被害や自分たちができる応援についてまとめたポスターを制作!

赤潮以外にも、プラスチックごみや温暖化の影響など、漁業を取り巻く様々な問題も知ることができました。これからも漁業の問題を知ることや、伝えることに取り組んでいきたいです。

その他のテーマ

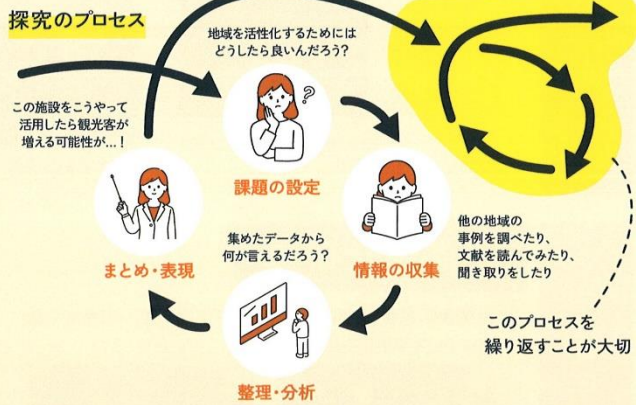
- ・バイト先のスーパーでフードロスが減らしたい
- ・中高生が集まる居場所をつくりたい
- ・町の花火大会で音楽を流して、若者の参加を増やしたい
- ・スポーツで大樹町を盛り上げたい
- ・みんなが歩く歩道をもっときれいにしたい
- など、様々なテーマで探究活動に取り組んでいます。

Q なぜ探究的な学びが必要なの?

A 現代社会の諸課題は、文系や理系など、どちらかの学びだけで課題を解決できるという単純なものではありません。例えば「地域を活性化するためには」や「グローバルな環境問題を解決するためには」などの課題を解決するには、各教科等での学びを統合させ、探究的に学習することが大切になります。

Q どんな力が身に付くの?

A 複雑に絡み合う地域や社会の課題に向き合い、自分達にできるアクションを見出し、実行と検証によって次のステップに進んでいく力＝問題解決能力を身に付けます。また、地域の様々な背景をもった人との対話や、チームメイトとの議論を通じて、問題解決に必要なコミュニケーション能力や、自身の考えを発信していく力を身に付けます。





2

自分を知り、キャリアを見つける
総合的な探究の時間

「キャリアデザイン」

学校設定科目の「地域デザイン」と同様に、大樹町の豊かな産業や人材資源を活用し、自己探求に取り組みます。

インターンシップ — 職業観と向き合う —

事前学習と事後学習をしっかりとすることで、自分の職業観と向き合う時間に。

1 年生

事前学習

- ・目標と課題の設定
- ・受入企業と確認

職業体験

- ・仕事を体験する
- ・メモをとる、質問をする
- ・主体的に関わる
- ・実習日誌による振り返り

事後学習

- ・お礼状の作成
- ・振り返り
- ・プレゼン資料作成
- ・報告会

台湾見学旅行 — 他国の文化を知り、交流を通して多様性を学ぶ —

事前学習



「食」をテーマに調べ学習



中国語・料理講座



義守大学生との交流内容を企画



手作りのミサンガと5円玉

体験



中正記念堂を観光



高雄市の蓮池潭



千と千尋の神隠しの舞台と言われている九份



士林夜市で夕飯



姉妹都市・大樹区の義守大学を訪問



義守大学生との交流


大樹高校から義守大学(台湾)に進学!

卒業生 大町 ビータ 龍馬

全世界40カ国以上から来ている留学生と一緒に勉強や文化交流をすることができる柔軟な大学です。また、英語と中国語の両方を学ぶことも魅力です。

進路強化研修

大学進学、就職など進路別にグループに分かれ、一日かけて進路について集中して考えます。

コース別探究

面接練習や進学講習など、希望する進路別に必要な探究活動を行います。




3 年生



3

一人ひとりの将来の夢に応じた学習
希望進路別の学校設定科目

「大樹高Plus」



1年生

2年生

3年生

基礎学力の向上と一般教養を身に付ける！

ベーシックコース

1年生では中学校の復習からスタート。基礎学力をしっかり身に付けることで将来の幅が広がる！

義務教育の復習

一般常識

高校基礎

一般常識

高校基礎

自己分析

業界研究

履歴書作成

面接練習

プレゼンテーション

一般教養

ワンランク上のレベルにチャレンジ！

アドバンスコース

大学進学を目指す人や、より専門的な知識を身に付けたい人のためのチャレンジコース。

現代文

数学

英語

古典

数学

英語

現代文

数学

英語

実用的なスキルを身に付け、なりたい自分へ！

ビジネスコース

就職を目指す人や、社会にでてから役立つ実用的なスキルを身に付けるための実用技術コース。

ビジネス文書

情報処理

ビジネス文書

情報処理

ビジネス文書

情報処理

プレゼンテーション

一般教養

＼まだまだあるよ！／

大樹高校の4つの特色

1 誰にでもわかりやすい授業づくり

平成27年度に文科省の指定を受けて、一人ひとりの学びの進度に応じた授業づくりを研究実践してきました。生徒が自ら学びたくなる『アクティブ・ラーニング』を、全学年・全科目で取り入れています。教えることは要点を絞って最小限にし、応用段階のディスカッションや発表に取り組むことで、学びたくなるスイッチを押す授業づくりをしています。

2 コミュニケーションスキルトレーニング

ディスカッション中心の授業を支えるのは、「個人を尊重するから」。人は一人ひとり違う個性や感じ方をもっているということを理解し、他者や自分以外の世界とよい関係をつくるコミュニケーションスキルを3年間を通じて学びます。

1年生 人間関係、個性理解

2年生 コミュニケーション、感情コントロール、トラブル・アクシデント対応

3年生 強みを認識、自己表現、他者との共生

3 室蘭工業大学等、国公立大学との連携、体験型の授業

4 食で地域とつながる「フードデザイン」他、多世代交流や地域貢献活動



北海道大樹高等学校

〒089-2155 北海道広尾郡大樹町緑町1番地
TEL 01558-6-2063 / FAX 01558-6-2868
<http://www.taiki.hokkaido-c.ed.jp/>



教科書では、 学べないことも。

宇宙のまち大樹町で
唯一の高校が大樹高校です。

全校生徒、約100人。

ふつうの子はひとりもいません。

全員が特別で、たったひとりの存在です。

いま、世の中が大きく変化しています。

これまであたりまえだったものが

みなさんが卒業するころには

新しくなっているかも知れません。

だからこそ私たちは、

人間としての「土台」を養う学びを大切にしています。

勉強や、部活や、就職のこと。

ひとりひとり違う夢や目標に向かうための、

助けになる力を身につけてほしいのです。

先生が教えるだけではありません。

地域で活躍する先輩たちも、

ふたつとない豊かな自然も、

このまちの全部があなたの頼れる教材です。

これから先の人生で、きっと何度も思い出す。

そんな3年間があなたを待っています。



普通科 地域探究科
はじまる。

学校の外へ飛び出し、地域の現場を肌で感じ、地域の人と語り合う。教科書に書いてある社会課題が、本物に触れることでグッと身近になる。
「自分ごとで社会に貢献できる人」へ。大樹高校はそんな生徒を育成するため、希望の進路を実現するための自己探求と地域探究に力を入れて取り組んでいます。



TAIKI HOKKAIDO
TAIKI
HIGHSCHOOL

教科書では、学べないことも。



北海道大樹高等学校

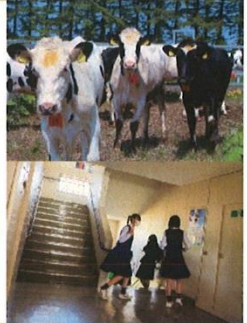
大樹高校活性化推進協議会





普通科 地域探究科
はじまる。

学校の外へ飛び出し、地域の現場を肌で感じ、地域の人と語り合う。教科書に書いてある社会課題が、本物に触れることでグッと身近になる。「自分ごとで社会に貢献できる人」へ。大樹高校はそんな生徒を育成するため、希望の進路を実現するための自己探求と地域探究に力を入れて取り組んでいます。



TAIKI HOKKAIDO
TAIKI
HIGHSCHOOL

教科書では、学べないことも。



北海道大樹高等学校

大樹高校活性化推進協議会



大樹町のより良い未来のために

高校生議会

10月19日 役場3階議場にて開催

大樹高校の3年生23名が8班に分かれ、高校生議員として町長や教育長に対して一般質問を行いました。



齊藤 徹 議長

議長挨拶

『大樹町では、平成24年から大樹小学校の児童による子ども議会を開催し、平成27年から高校生議会を開催している。令和3年から2年間は新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止されていたが、こうして高校生議会が再開できることを大変嬉しく思う。』

一般質問では、高校生ならではの目線を大切に、普段感じていることを率直に議論し、様々な課題について議会も一緒に考えていきたいと思う。

高校生の皆さんは選挙権を得る年齢となるので、高校生議会を通じて、政治や議会活動に関心を高めてほしい。

高校生議会が実りあるものとなることを祈念する。』

開催経過報告



上田 瑞姫 議員

『高校生議会は、町政全般に関心を持つことで、地域への理解を深め、地域のより良い未来について関心を高めることを目的としています。』

総合的探究の時間で行った地域探究活動では、大樹町の課題を見つけ、地域の方々と協力しながら、私たちの考えや思いを形にし、課題解決に向き合ってきました。

それぞれの視点から意見交換をし、新たに、そして改めて大樹町の魅力や町政の役割、身の回りの課題について考える非常に良い経験を行うことができました。

本日はその成果を町に還元できる貴重な機会と考え、真剣に議論し、政治参加を経験したいと思います。』

1班

『大樹町内で若者が気軽に集まることのできる場所について』

道見 篤 議員・播間 悠晟 議員・藤原 秀真 議員



問 大樹町で集まる場所として、道の駅の休憩所があるが、若者の理想と離れている。理想は周りが気にならずゲームや話を長時間できる場所だが、作る考えは、若者が住み続けたいと思う町をどのように作ろうと考えているか。

答 現在、気軽に集まることのできる場所は道の駅が考えられるが、新たな集まる場所の必要性について、道の駅の魅力向上や機能充実、空家・空き店舗等の有効活用も含めて検討していきたい。未来共創会議や町長と語る会等で意見をお聞きし、魅力あるまちづくりを進めていきたい。

2班

『中高生が集まる交流場所について』

上野 千夏 議員・木戸 稚捺 議員
大木 愛菜 議員・加藤 鈴音 議員



問 新図書館は、いつ、どんな図書館を建てる予定か。カフェを導入することで、利用客の増加と多世代交流の場所となる。建設場所は街中心部とし、PC設置やWi-Fi環境の完備により、中高生のニーズを満たすことのできるのでは。

答 図書館の在り方は、総合計画や生涯学習中期計画策定を踏まえて、改築を含め検討する。カフェの導入は、食品衛生責任者の配置や営業許可を得るための設備整備等の課題が多く、慎重な議論が必要。いただいた意見も含め、関係委員等の意見もいただき検討する。

※内容を要約して掲載しています。

3班

『大樹町の遊び場の建設について』

荒城 栞大 議員・杉村 柰太 議員・加藤 拓磨 議員



問 大樹町は、外で遊べる場所が多い反面、室内は少なく、天候に左右される日が多いので、保育園児から小学校低学年までが遊べる室内施設が必要だと考える。新しい施設を作るのが難しい場合、使われていない保育園等を再利用するのはどうか。

答 商工会が町の補助金を活用し、道の駅1階に遊び場を設置する。11月中にすべての遊具が揃う予定。南保育園など、閉館している施設に遊び場を設置する場合、光熱水費や管理人の人件費など、維持管理費用が生じる。既存施設への設置で経費を削減できるので、検討していきたい。

4班

『旧B&G海洋センタープールの再利用について』

鈴木 瑠渚 議員・小川 瑚乃花 議員



問 旧B&G海洋センタープールを活用し、魚の養殖に取り組んでは。近年、大樹町では漁獲量が減少し、漁組ではサクラマスの養殖を試験的に実施したが、赤潮による被害を受けた。よって、影響を受けないプールでの養殖が適しているのでは。

答 旧プールは、老朽化が著しく建物を支えている鉄骨本体の耐久性もないため、危険であり再利用は難しい。赤潮や台風などの影響を受けない陸上養殖の取組については、今後も関係機関とも協議し、あらゆる可能性を探っていきたい。

5班

『大樹町の特産物を広め、町を知ってもらうための考えについて』

廣瀬 芹菜 議員・千葉 弥生 議員



問 特産物の認知度が低いので、利用者が少ない道の駅の改装を提案する。観光客の目に留まるよう、外装は観光客参加型のウォールアートに、内装は商品の陳列方法の工夫やPOP、生産者の顔写真やコメントを設置しては。

答 観光客参加型のウォールアートは、注目される企画だと思うので、実現が可能か調べる。陳列方法の工夫やPOP、生産者の顔写真やコメントの設置は、運営団体側と調整したい。道の駅は町の観光拠点で重要な施設。足を運んでもらうための方策は、広く町民の声を取り入れて検討を進めたい。

6班

『大樹町の食の知名度を上げるための方法について』

上田 瑞姫 議員・鎌田 心菜 議員・松田 玲奈 議員



問 町の食の知名度を上げるため、ふるさと納税の返礼品を増やし、手に取ってもらう機会を増やしては。また、色々な町の特産物を使った食べ物を出店するイベントの開催やテレビ取材に応募して芸能人等に宣伝してもらうことで、幅広い世代に注目されるのでは。

答 町では新たに返礼品を増やす取組を進めている。観光協会と鯉のぼりイベントや各種まつりを開催し、大樹町の特産物を使った食べ物の販売等を行っている。イベント開催が活発になるよう、関係団体と連携しながらPRの面で支援する。テレビ取材は、公募があれば応募を検討する。

7班

『大樹町の道の安全性について』

星久保 友里亜 議員・濱名 佳奈 議員・木村 心寧 議員



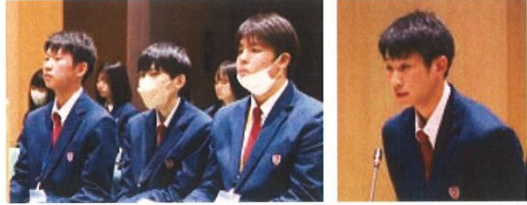
問 大樹町の道を歩いて、危険箇所を調査した結果、歩道の段差が特に危険だった。実際につまづき転んだ話も聞いたので、段差をなくしては。また、街灯のない道が夜は暗くて危険。すべての街灯をLEDにし、お金を削減しつつ光量を増やしては。

答 歩道の重要な役割は、歩行者と車両を分離し、段差により車両の進入を防ぎ、歩行者の安全を確保すること。ただし高齢者や車いす使用者の安全の確保も重要。今後の道路整備で検討したい。LED化していない街灯は、修繕等の際に更新。必要に応じて街灯の設置も行う。

8班

『大樹町をPRするにはどうするべきか』

青木 悠斗 議員・村木 陸 議員・工藤 京輔 議員



問 町のスポーツ施設は多くの観客を入れてイベントや大会が開ける場所ではなく、老朽化も進んでいるので新築しては。町の景色の綺麗な場所のドライブコースマップの配布や、道の整備を実施しては。町のSNSは閲覧人数が少ないためタグを増やしては。

答 施設の建設は多額の費用が必要で、町財政やほかの施設を含めた優先度・緊急性を考慮して検討したい。ニーズに応じて、景色の綺麗な場所のドライブコース設定とPR、道の整備に努める。SNSのタグ設定は増やす。

高校生議会を終えて

『質問はこれからの大樹町を心配いただいたものが多く、大変思いやりがある内容だった。皆さんの意見を念頭に置き、これからのまちづくりに取り組んでいきたい。』



黒川 豊 町長

地域を知り、課題を見つけ、考えて行動することは、非常に大事であり、それを高校生の皆さんが取り組んでいることは非常に心強い。将来、社会で活躍する中で、この視点や行動は必ず役に立つと思う。

この経験を活かして、たくましく活躍してほしい。』

高校生の感想

- ・考えや思いを伝えられたので、今後活かしてほしい。
- ・町をより良くする気持ちや政治への関心が高まった。
- ・町の現状や課題を知ることができた。
- ・地域の発展のための力になることができたと思った。
- ・とても緊張したが良い経験になった。
- ・議会の難しさと大変さを知ることができた。
- ・意見を伝える難しさ、考える難しさを学んだ。
- ・町の発展のための案を直接話すことができ嬉しかった。

高校生議会に向けて

●一般質問の傍聴 6月8日、高校生23名が第2回定例会の一般質問を傍聴。

●サポート授業 議長と議員6名（広報広聴常任委員）が大樹高校を訪問。高校生議会に向けてのサポート授業を実施。

<第1回（8月22日）>

- ・議会や一般質問のルールを指導
- ・一般質問通告書の作成をアドバイス

<第2回（10月10日）>

- ・町長や教育長の答弁書をもとに、再質問のコツをアドバイス

